

宮城県林業普及活動情報

2015. 7月号 No. 86

もくじ

各地の林業普及活動情報

P2～14

- 「県職員（林業職）を目指す高校生への支援」 (大河原地方振興事務所)
- 「新規補助事業による間伐事業の推進」 (大河原地方振興事務所)
- 「丸森町小斎地区にある放射能測定機器の運用」 (大河原地方振興事務所)
- 「宮城南部流域森林・林業活性化センター仙南支部への支援」 (大河原地方振興事務所)
- 「地方創生」に向けた地域資源の活用 について (大河原地方振興事務所)
- 「みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会への支援」 (大河原地方振興事務所)
- 「森林組合主催のコンプライアンス研修」 (大河原地方振興事務所)
- 「大和町の林業振興と喫緊課題の解決」 (仙台地方振興事務所)
- 「菌床しいたけの担い手確保に向けて」 (仙台地方振興事務所)
- 「プレゼントツリーinみやぎ大崎」植樹イベント開催 (北部地方振興事務所)
- 「小学生を対象とした広葉樹の植樹体験」 (北部地方振興事務所)
- 「ムラサキシメジ実証試験栽培の取組」 (北部地方振興事務所)
- 「たけのこの生産再開に向けた説明会を開催」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「花山小学校の自然体験授業を支援」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「間伐実施に係る現況調査」 (東部地方振興事務所)
- 「新規用途導入促進支援」 (東部地方振興事務所)
- 「工業高校インターンシップ実施」 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 「住まいのナイス耐震博覧会」 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 「ムラサキシメジ栽培試験実施」 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 「FSC-FM認証本審査について」 (気仙沼地方振興事務所)
- 「自伐林家による間伐実施支援」 (気仙沼地方振興事務所)
- 「木質バイオマス担い手育成セミナー」 (気仙沼地方振興事務所)
- 林業作業士1年目研修を支援① (林業技術総合センター普及指導チーム)
- 林業作業士1年目研修を支援② (林業技術総合センター普及指導チーム)
- 平成27年度林業人材育成ステップアップ研修及び森林総合監理士育成研修
(第2回)の開催に向けた現地検討 (林業技術総合センター普及指導チーム)
- 平成27年度林業人材育成ステップアップ研修開催 (林業技術総合センター普及指導チーム)
- 平成27年度林業人材育成ステップアップ研修及び森林総合監理士育成研修
(第2回)の開催 (林業技術総合センター普及指導チーム)
- 「林業教室の開催」 (林業技術総合センター普及指導チーム)
- 「持続的森林管理創造プロジェクトチーム会議」 (林業技術総合センター普及指導チーム)

「県職員（林業職）を目指す高校生への支援」

～先輩！県職員って楽しいですか？～

大河原地方振興事務所

【7月1日（水）】

今年度県職員（林業職）への就職を希望する生徒に対して仕事の内容や試験へのアドバイスをして欲しいとの要請が学校から寄せられました。

そのため、昨年同校を卒業後、県に入庁し当事務所に配属された職員を交えて生徒の疑問を解消した結果、生徒は改めて就職への決意表明をしていました。



【リラックス状態で疑問を解消！】

「新規補助事業による間伐事業の推進」

～積極的に事業に取り組む～

大河原地方振興事務所

【7月2日（木）】

白石蔵王森林組合から、新規補助事業となる「森林整備加速化・林業再生交付金事業」の実施について、間伐事業の推進を図るための相談があり、計画予定箇所が採択要件に合致しているかの確認や森林所有者の合意形成手法などについて指導を行いました。

当該森林組合では、従来 of 森林育成事業の予算が年々厳しくなっていること（予算対前年比63%）等から、従来事業だけでなく、新規事業に積極的に取り組みこれからの効果的な森林整備手法（方向性等）を模索しています。

指導の結果、森林経営計画や高密路網計画などを積極的に策定し、今後の事業実施を進めて行きたいとの意欲が示されました。



【効果的な事業実施に知恵を出し合う】

「丸森町小斎地区にある放射能測定機器の運用」

～運用を進めて見えてきた課題など～

大河原地方振興事務所

【7月8日（水）】

平成27年4月にたけのこの出荷制限指示が解除された丸森町小斎地区に新しく設置された放射能測定機器を管理者と丸森町の担当者と共に、今年の運用状況や改善点について意見交換を行いました。

直売所でのたけのこの売り上げ効果は大きいですが、200本/日測定するのが限界とのことで、今後解除地区が増えた場合、現在の機器だけでの対応は困難とのことでした。



【現場（丸森町）での意見交換】

また、「測定作業は農協の協力も得られないか」や「この状況はいつまで続くのか」という話しも出されました。

測定は今後も続く見込みで有り、継続的に支援してまいります。

「宮城南部流域森林・林業活性化センター仙南支部への支援」

～支部運営のあり方について～

大河原地方振興事務所

【7月9日（木）】

昨年度（H26）から支部の事務局となっている七ヶ宿町森林組合から、会の運営が規約に則していない形となっているため、全体会議の開催方法と併せて指導して欲しいとの要請がありました。

内容を確認したところ、東日本大震災以降に、要領が定める役職を選任していない点等が見受けられました。そのため、今後10月に全体会議を開催し役職の選任や要領の見直し等を行うことになりました。



【支部の将来の姿を模索中！】

「地方創生」に向けた地域資源の活用について

～たけのこ等を活用した小さな拠点整備～

大河原地方振興事務所

【7月10日（金）】

柴田町では、地域資源である町内産たけのこに着目し、国で進める地方創生事業の導入について検討しています。

このことは、県産たけのこの生産振興につながる取組であることから、サポートチームの一人として検討会に参画しアドバイスをを行いました。

取組内容は、たけのこを主とした計画となっていました。たけのこは旬の季節が短いため、通年安定した事業を展開するためには、加工品の開発・製造についての検討や、農産物をはじめ他の地場産物の発掘と組み合わせにより、年間を通した取組とすることが必要であること等を助言し理解を得ました。



【柴田町への助言・情報交換等の様子】

「みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会への支援」

～水素社会の実現に向けて～

大河原地方振興事務所

【7月14日（火）】

平成26年度、再生可能エネルギーの活用を目指した協議会が県南地域で設立され、今年度第2回目となる会議が開催されました。

今後のスケジュールとして4年後の稼働を目指したいとする話が出ましたが、原木供給側からは発電量の見直し等により当初の原木必要量は減少したものの価格等が提示されていない状況にあり、供給可能か議論されないまま話が進みすぎているという意見が出されました。これにより次回は原木供給に特化した会議を開催することになり、当事務所としても引き続き支援を行うこととします。



【回を重ねる毎に出席者が増加！】

「森林組合主催のコンプライアンス研修」

～地道な組織の風土づくり～

大河原地方振興事務所

【7月22日（水）】

川崎町森林組合からの依頼を受け、役職員を対象にした研修でコンプライアンスの基本的事項等を説明しました。

ルール遵守のもとでの林業労働安全対策に取り組むことがコンプライアンスの推進にも繋がることを、林業労働安全教育の話しと併せて説明しました。

研修では、当たり前のことを当たり前に行うことの困難さや、林業労働安全に係るルール違反（やってはいけないことをやってしまう）の根底にあるものがコンプライアンスの推進を妨げるものであること等が理解されました。

また、健全な組織運営を行うためには、組織のトップが認識を深めるだけでなく、役職員との共通認識・情報共有やお互いに注意しあえる環境を整えるなど、日ごろからの組織の風土づくりが重要であることが認識されました。



【猛暑の中、熱心に耳を傾ける役職員】

**「大和町の林業振興と喫緊課題の解決」
～大和町林業振興に係る研修会を開催～
仙台地方振興事務所**

【7月17日】

大和町では毎年、大規模森林所有者や森林組合、林業関係団体などを対象とした「林業振興に係る研修会」を開催しています。当事務所からは森林整備や病虫獣害対策をはじめ、林業・木材産業の震災復興状況や最新の県施策展開について情報提供しました。日頃から、生産性の高い高収益の森林施業を目指す参加者からは、特に、森林整備関係補助事業や森林計画制度に対する多くの質問が出され、質疑応答の末、理解が一層深まったようです。

また近年、官行造林地が伐採後、市町村等へ返地され、そのスムーズな更新が課題となっていることから、同様のケースである大和町宮床財産区所有林 44ha を会場に、今後の対応について参加者全員で検討しました。

その結果、低コストで確実な森林造成を目指すために、早速、植栽が必須な箇所と天然更新が期待できる箇所の明確な区分を行う調査を開始することや、コンテナ苗木を採用した植栽を進めていくなど、早期更新への道筋が議論され、課題解決の糸口となりました。



【多くの質疑応答があった室内研修】



【雨のなか熱心な意見が交わされた現地検討】

**「菌床しいたけの担い手確保に向けて」
～菌床しいたけ新規就農に向けた支援～
仙台地方振興事務所**

【7月21日、29日】

菌床しいたけ施設栽培への新たな就業を目指し、みやぎ農業振興公社の給付金制度を活用して栽培技術等の研修を受講している新規就業希望者に対して、同公社とともに、研修先の事業体を訪れ、打ち合わせを行いました。

打ち合わせの場では、これまでの研修における疑問点や習得状況等を確認するとともに、今後の研修の進め方等について助言を行いました。

現在は、2年間の研修期間のうち半年が経過したところですが、今後はこれまでの収穫作業や発生管理作業に加え、出荷・販売管理作業も併せて学んでいく予定であることから、将来的に、研修生が菌床しいたけ生産の新たな担い手として定着できるよう、研修先や公社等関係者と連携しながら、支援を続けてまいります。



【研修先における打ち合わせ】



【研修の現場を見学】

「プレゼントツリーinみやぎ大崎」植樹イベント開催

北部地方振興事務所

【7月5日(土)】

NPO 法人環境リレーションズ研究所が主催する植樹イベントが大崎市鳴子温泉沼井地内の大崎市有林で行われました。

このイベントは、昨年、同 NPO 法人、大崎市、大崎森林組合の 3 者で締結された「森林整備協定」に基づき、同市有林に 10 年間、広葉樹を植栽する取組です。

当日は、好天に恵まれ、東京方面や地元大崎市周辺等から総勢約 100 名の参加があり、ヤマザクラ、ミズナラ、ミズキ、イタヤカエデの 4 種を植栽しました。

参加者の中には、幼稚園児もいて、親子が協力して一生懸命植栽を行っていました。

昨年に続き連続して参加されている人も多く、参加者は昨年を上廻りました。



【植栽作業の様子】

「小学生を対象とした 広葉樹の植樹体験」

北部地方振興事務所

【7月15日(水)】

大崎市鳴子温泉鬼首地区において、鬼首小学校 5・6 年生 9 名が植樹体験を行いました。

今回植栽したのはソメイヨシノ、ヤマボウシ、ナナカマドの 3 種類で、普及指導員がそれぞれの樹種の特徴の説明や植え方について指導しました。生徒たちはヤマボウシには美味しい実がなるという話しに皆興味深そうな様子で、植樹体験後の感想発表では「大変だったけど楽しかった」との感想が多く聞かれました。



【植樹を終え全員で記念写真】

「ムラサキシメジ実証試験栽培の取組」

北部地方振興事務所

【7月3日(金)】

県内では、放射能の影響を考慮し、平成 23 年度からムラサキシメジの栽培が自粛されていますが、県が平成 24 年度から平成 26 年度にかけて行った実証栽培試験では、全ての子実体の放射性物質濃度が、食品基準値未満であることが確認されています。

今年度、大崎管内では 4 名の意欲ある生産者に協力してもらい、実証栽培を継続することとしており、7月3日には、最初の作業となる菌床ブロックの伏込み作業に立会いました。菌床ブロックを 2 つ



【伏せ込み時の菌床ブロック】

に割り切断面を下に向け、円形に敷いたバーク堆肥の上に設置します。その上に菌の栄養源となる落葉を山盛りにかけ、水をまいて伏込み作業は完了です。予め落葉を水に充分浸してから菌床の上にかけてあげるのがポイントです。

また、栽培自粛解除に向け、土壌・落葉等の放射性物質濃度や空間線量の測定を行い、データを記録しました。順調に生育すれば、11～12月頃には子実体（きのこ）が発生するので、その時に再び放射性物質の測定を行い、結果を取りまとめる予定です。



【実証試験地の様子】

「たけのこの生産再開に向けた説明会を開催」

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【7月15日(水)、24日(金)、31日(金)】

栗原市南部の旧4町（築館、志波姫、瀬峰、高清水）において、たけのこの出荷制限が解除されたことから、この解除地区の直売施設の代表と生産者を対象に、次期シーズンのたけのこ販売に係る手続きについて説明会を開催しました。また、今年度は出荷制限解除に至らなかったものの、検査結果が比較的良好であった区域の直売施設を対象に、今後の出荷制限解除に向けた対応について説明するとともに、継続した検査への協力について依頼しました。

出荷制限解除後のたけのこの販売に必要な各種手続きや、商品表示の必要事項等について質問があり、活発な意見交換ができました。



【説明会の開催状況】

「花山小学校の自然体験授業を支援」

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【7月14日(火)】

花山小学校が5・6年生を対象に行っている自然体験授業が開かれ、その支援のため参加しました。

授業は「花山の林業」をテーマに行われ、岩手宮城内陸地震の復興を祈念して先輩達が植えたスギに施肥する作業や、森林組合が実施している伐採現場で伐倒・玉伐り作業の見学が行われ、その際に施肥の技術指導や伐採作業の説明を行いました。

子供達は花山地区の森林・林業の重要性について理解を深めることができました。



【スギが大きくなるように肥料をあげています】

「間伐実施に係る現況調査」

東部地方振興事務所

【7月6日（月）】

平成26年度森林整備加速化・林業再生事業（交付金）で間伐を実施予定の箇所について、踏査による森林の現況調査を実施し、森林計画図との照合作業を進めました。

その結果、現況訂正が必要な箇所が明確になり、事業実施面積の精度が向上するとともに、現況地形に合わせた作業道策設の線形を概ね決定することができました。

全体として、現況訂正作業が遅れている旧河北町の森林計画図及び森林簿の精度向上が図られました。



【踏査による現況調査の状況】

「新規用途導入促進支援」

東部地方振興事務所

【7月14日（火）】

平成26年度森林整備加速化・林業再生事業（交付金）の新規用途導入促進支援で実施するCLTの試作について、予算的な制約がある中、効果的なPRの方法について柔軟かつ自由な意見交換を基に検討する組織として研究会の立ち上げを提案し、出席者全員から了承されました。また、森林組合が初参加であったことを受け、事業スケジュールや研究会としてのCLT試作の方向性について再確認を行い、各委員の共通認識を得ることができました。

今後、CLTの普及PR施設について検討するとともに、その内容に基づく材料の寸法、数量等を具体的に算出していくこととなりました。



【事業スケジュール、普及PRに係る検討状況】

「工業高校インターンシップ実施」

東部地方振興事務所登米地域事務所

【7月6日（月）と7月14日（火）】

それぞれ石巻工業高校、古川工業高校の建築科の生徒（1年生）40名を対象に、植林作業の体験学習を実施しました。登米市津山町横山地区の市有林において、低花粉苗の植栽を行い、猛暑の中の作業でしたが、木を使うことの重要性や森林の役割について理解を深めることができました。



【古川工業高校：植栽指導】



【石巻工業高校：植栽状況】

「住まいのナイス耐震博覧会」

東部地方振興事務所登米地域事務所

【7月11日(土)・12日(日)】

住まいのナイス耐震博覧会に、もくもくハウス仙台店が出店し、木工品の販売PR活動を行い、その運営の支援を行いました。住宅建設に関心の高い人々が多数訪れ、木製品の良さを十分浸透することが出来たと思われま



【もくもくハウスの出展状況】

「ムラサキシメジ栽培試験実施」

東部地方振興事務所登米地域事務所

【7月3日(金)】

ムラサキシメジ実証試験のマウンド設置を行いました。

登米市東和町米川の米川生産森林組合の所有林を借りて、菌床の埋め込み作業を行い、対照区を含めて10マウンド設置し、今後栽培管理を行いながら、放射性物質の影響などを調査することとしています。



【マウンド設置状況】

「林内ほだ場再開に向けた視察研修」

東部地方振興事務所登米地域事務所

【7月28日(火)】

林内ほだ場での原木しいたけ生産再開に向けて、登米市露地栽培原木しいたけ生産推進協議会主催により、先行実施している岩手県一関市の生産者の取組状況を視察しました。

雨水や土壌の影響も調査しており、登米市における生産再開に向けて、多くの貴重な情報を得ることが出来ました。



【林内ほだ場での調査】

「FSC-FM認証本審査について」

気仙沼地方振興事務所

【7月21日(火)から23日(木)】

南三陸町において、南三陸森林管理協議会によるFSC-FM認証に向けた審査機関による本審査が実施されました。

今回申請した森林は、南三陸町、(株)佐久、大長林業、慶應義塾大学が所有する約1,324haで、南三陸町のスギ・アカマツ等の生育特性を生かした長伐期施業を指向する森林管理を主体に、審査基準項目に沿って、これまでの取組み及び今後の管理方針等について現地審査を2日間、書類審査を1日受験しました。

現地の森林管理状況や、森林管理計画書について、協議会から審査員に説明の後、各基準項目について審査員からの質問へ協議会が回答する形式で審査が無事終了しました。

FSC-FM認証は9月末までに宮城県内では第一号の認証となる見込みです。

事務所では、FM認証森林の整備促進への支援のほか、FM認証材による各種製品化と施工関係者へのPR活動など、認証効果が十分に発揮できるよう総合的な支援を行って行くこととしています。



【協議会会長による対象森林の説明状況】



【審査員による書類審査への対応状況】

「自伐林家による間伐実施支援」

気仙沼地方振興事務所

【7月7日(火)、23日(木)】

気仙沼市において、気仙沼地域エネルギー開発(株)における木質バイオマス発電プラントに対し、気仙沼市八瀬地区の森林の間伐事業による間伐材の供給を行っている自伐林家11名による「八瀬森の救援隊」における間伐施業の円滑な実施を図るため、今年度の間伐施業予定林分における路網整備についての現地指導を行いました。



【コンパス測量実施状】

現地指導では、開設線形の踏査と平行し、コンパス測量等の指導を行いました。

今後は、事業実施に向けた技術指導のほか、各種支援制度の活用に向け、隊員による施業箇所的基本的な調査及びと調査結果のとりまとめが円滑に実施できるよう継続した支援を行っていきます。



【開設線形の検討状況】

「木質バイオマス担い手育成セミナー」

気仙沼地方振興事務所

【7月18日（土）、25日（土）】

気仙沼市において、自伐林家育成のために気仙沼市雇用創造協議会が主催した「木質バイオマス担い手育成セミナー」が開催されました。

セミナーでは、兵庫県や徳島県の自伐林家経営者が講師となり、気仙沼市八瀬地区の「八瀬森の救援隊」のほか、自伐施業を実施している市内の林家が参加し、北欧式の最新伐採技術・簡易架線集材・森林作業道開設に関する技術研修を行いました。

特に、印象的だったのは北欧式の伐採技術で、受け口の角度を深くすることで伐倒方向をコントロールする手法で、ロープワークによる伐倒方向の制御と併用することで、労働災害の軽減につながる技術です。

我々も常に最新技術等の知見の吸収と現場への普及等について再認識することができました。



【簡易架線集材】



【作業道の開設】



【ロープワークの実施指導】



【北欧式伐採技術の受け口】

林業作業士 1 年目研修を支援①

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月2日（木）】

県林業労働力確保支援センターから、林業作業士 1 年目研修の講師依頼があったことから、31 名の受講者を得て、林業の普及啓発と林業労働安全教育を中心に、配布テキストを用いて、「造林・育林・間伐作業の種類と目的」について講義しました。

受講生全員が、大過なく、2 年目研修を迎えられることを願っています。



【講義の様様】

林業作業士 1 年目研修を支援②

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月8日（水）、9日（木）】

県林業労働力確保支援センターから講師派遣依頼があり、31 名の受講者を得て、「森林の調査及び測量」を講義しました。森林調査では、立木調査器具（径級：輪尺、樹高：ワイゼ式測高器、ブルーメライス、バーテックス）を用い、立木調査による林分材積の推計方法を学びました。森林測量では、測量器具（牛方式ポケットコンパス）を用いた外業と製図実習で、測量から製図に至る一連の作業を学びました。



【測量実習の様様】

平成 27 年度林業人材育成ステップアップ研修及び森林総合監理士育成研修（第 2 回）の開催に向けた現地検討

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月17日（金）】

8 月 3 日に開催される標記現地研修講師の高橋森林施業プランナー（栗駒高原森林組合総務課長）と講義内容の調整を行いました。現地は、かつての間伐展示林跡地で、地元児童と東日本大震災の被害児童・生徒の手による岩手・宮城内陸地震の交流復興植樹会場にほど近いところで、感無量でした。加えて講師森林組合による森林経営計画策定地が適切に選択されておりました。



【緑化状況の確認】

平成27年度林業人材育成 ステップアップ研修開催

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月29日（水）】

本県では、森林施業プランナーの認定者が伸び悩んでいることから、12名の受講者を得て、「森林施業プランナーテキスト基礎編」に準拠した学習教程を実施しました。



【講義の様相】

平成27年度林業人材育成ステップアップ研修及び森林総合監理士育成研修（第2回）の開催

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月30日（木）】

森林施業プランナーに必要な知識とは何かを理解し、森林施業プランナーと準フォレスターとの交流を図るため、15名の受講者を得て、標記研修会を開催しました。提案型集約化施業を学び、その推進に向け、コミュニケーション能力を高めるため、一人一人がプレゼンテーションを実施しました。また、パソコンを用いて、間伐見積シミュレーションソフトの使用方法について学びました。受講者から高い理解を得ることが出来ました。



【パソコンを用いた授業風景】

「林業教室の開催」

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月14, 15日】

林業後継者、林業従事者等を対象として、林業に関する基礎知識や技術を習得する「林業教室」を開講しました。

内容は、苗木の育成から造林までの講義と、松くい虫抵抗性の採穂園や採種園において、抵抗性苗木生産までの課程の説明や、森林保護では、「松くい虫」や「なら枯れ」等の被害状況の説明、所内で発生している主な病虫害の観察等を行いました。

また、木材加工・木材利用においては、木材利用全般、県森連の大衡総合センターにおいて木材価格や流通関係、黒川森林組合で製材所視察して木材加工、当センターの木材実験棟においては、非破壊による木材強度や含水率の測定方法の実習を行いました。



【森林病虫害の標本等を用いての説明】

受講生は、病害虫の観察や木材強度測定など初めて体験する内容が多く真剣に取り組みました。

「持続的森林管理創造プロジェクトチーム会議」

～持続可能な森林管理を目指して～

林業技術総合センター 普及指導チーム

【7月3日（金）、16日（木）】

県内のスギ人工林は収穫期を迎えています。伐採した木材の販売収入だけでは再造林や育林経費が賸えない状況です。そのため、森林の若返りが図られず、このままでは森林による二酸化炭素吸収量が減少するほか、豊富にある森林資源も将来枯渇することが懸念されます。

そこで、今年度から「持続的森林管理創造プロジェクトチーム」を立ち上げ、これらの課題を解決するため検討することとしています。今回はモデル地区候補地の事前調査と検討会議を行いました。なお、検討結果はPRチラシにまとめ、広く活用していく方針です。



【皆伐後、再造林されず放置された森林】